

熱いで! 大学スポーツ

# 関西キャンパス.COM

毎週月曜日掲載 大学スポーツ情報はこちらへ  
housand@hochi.jp

# 京産大8年ぶり優勝

西日本学生選手権  
バスケットボール  
最終日

(4日)大阪府中央体育館  
男子は京産大が8年ぶりに栄冠をつかみ、大会最多優勝となる15度目の頂点に立った。京産大が

高さとスピードで関大を圧倒。88-62で快勝した。女子は愛知学東大が73-60で桜花学園大を振り切り、2年連続35度目の優勝。立命は3位決定戦で敗れた。

▽男子3位決定戦

浜松大 92 22351817  
84 大産大 21182817

▽同決勝

京産大 88 24202321  
62 関大 15161318

(京産大は8年ぶりの15度目の優勝)  
▽女子3位決定戦

鹿屋体大 91 19232821  
66 立命大 28101117

▽同決勝

愛知学東 73 20112715  
60 桜花学園 17131317

## 大会最多15度目

オレンジ軍団が爆発した。走る、走る。勢いに乗る関大も、京産大の厚い壁を突き崩せなかった。「外」からスリーポイントシュート、「中」

へは鋭い切り込みを見せたF(フォワード)の浜田卓実主将(4年・村野工)は、「すごい、うれしいです」と白い歯をのぞかせた。大会通算109得点で得点王に。最多アシスト(16本)、最多リバウンド(37本)と3冠王に輝き、MVPも獲得した。活躍に石川俊紀監督(63)も「キャプテンシーを発揮してくれた」と持ち上げた。

## 38年ぶりならず

関大 38年ぶりのVを自指した古豪が力尽きた。それでも早川亮馬コーチ(27)は満足そう。「2位はできすぎです」と笑みを見せた。昨年の主力が

ゴール下では216センチ(C(センター)・菅谷徹(4年・興誠)が踏ん張った。最上級生で今年が最後。「西のタイトルは全部とりたい。最後まで出場させて」と監督に直訴し、体を張って制空権を支配した。

京産大にとって西日本学生選手権は、あくまで通過点。春の関西学生選手権も制し今年は快調だ。「これで終わリじゃない。秋のリーグも取って、インカレも」と浜田。指揮官も「最低でもベスト4を狙える。チャンスがないことはない」と、ビッグタイトルを見据えている。

2人抜け、これから本格的にチームづくりに入る。「ディフェンスが弱すぎる。鍛え直して(秋の)リーグ優勝をめざします」この日の貴重な経験を生かして、チーム再生を目指す。

た。(中森 修三)

## 4強も課題あり

立命大 乙津美香子コーチ(4年・中津南)は、はっきりとした口調で言った。「目標(ベスト4)は達成できたけど、課題も見つかった」産業社会学部に籍を置く学生コーチ。チームは4年前から監督不在で、学生がコーチを務める。同コーチも選手として入部したが、昨年夏、左アキレスけん断裂で選手を断念した。「チームに貢献したくて」と今年春からコーチに就任。「ボールに対する執着心を高めていきたい」26人の部員の「学生指揮官」は、11月のインカレ(東京)でもベスト4を狙う。



関大陣地に切り込む京産大。坂本裕喜(2)